

平成26年 網走市議会
総務文教委員会会議録
平成26年5月30日(金曜日)

○日時 平成26年5月30日 午前10時00分開会

係 田 中 康 平

○場所 委員会室

○議件

1. スポーツ合宿の予約状況について
2. 5月16日から17日の大雨・強風に伴う災害発生状況について
3. 行政視察の取りまとめについて
4. その他

午前10時00分開会

○平賀貴幸委員長 おはようございます。
ただいまより総務文教委員会を開会いたします。
本日の委員会は、スポーツ合宿の予約状況についてと、5月16日から17日の大雨・強風に伴う災害発生状況について、また、行政視察の取りまとめについての、議件3件についてであります。

最初にスポーツ合宿の予約状況について説明を求めます。

○岩本博隆スポーツ課長 本年度のスポーツ合宿の予定につきまして、説明させていただきます。

資料1号をごらんください。

ラグビー合宿については、現在のところ、7月18日から8月24日まで、社会人はトップリーグと日本選手権を制したパナソニックを初め、東芝、サントリーなど8チーム、大学は網走初合宿となる慶応大学、山梨学院大学を含め4チーム、さらに、日本協会のレフリースポーツ委員会を加えた、13団体の合宿が予定されております。

また、恒例となりました網走ラグビーフェスティバルにつきましては、ことしは7月26日土曜日に開催し、パナソニック対神戸製鋼など、5試合を予定しております。

陸上につきましては、ことしのニューイヤー駅伝を制し2連覇をしましたコニカミノルタを初め、トヨタ、ホンダ、東日本実業団男女選抜、こちらは男女それぞれが来ます。関西実業団男子選抜のほか、ことしは初めて中部実業団男子選抜合宿が予定されております。

7月6日に開催する、ホクレンディスタンスチャレンジ網走大会に合わせ、日本陸連の日韓交流事業による韓国選抜チームと日本選抜チーム約60名、さらに、ことしは韓国の実業団チーム20名ほども帯同し、合宿と大会出場が予定されております。

また、トヨタ自動車女子バスケットボール部が、6月23日から7月3日まで合宿が予定されております。実業団のバスケットボール合宿は、平成11年のデンソー以来となります。

以上であります。

○出席委員(6名)

委員長	平賀貴幸
副委員長	井戸達也
委員	飯田敏勝
	近藤憲治
	高橋政行
	七夕和繁

○欠席委員(0名)

○委員外議員(1名)

副議長	山田庫司郎
-----	-------

○傍聴議員(3名)

金兵智則
松浦敏司
渡部眞美

○説明者

副市長	大澤慶逸
企画総務部長	川田昌弘
総務課長	大島昌之
総務課参事	本間保司

.....

教育長	木目澤一三
社会教育部長	後藤伸次
スポーツ課長	岩本博隆

○事務局職員

次長	吉田正史
総務議事係長	岩尾弘敏
係	菊地香代子

りとなっております、3ページには被災箇所図を、4ページ以降には現場写真を添付しておりますので、後ほど御参照願います。

なお、被災箇所の復旧にかかる費用につきましては、現在、建設部が積算精査中であり、早急な普及にあたるよう進めております。

以上でございます。

○平賀貴幸委員長 それでは質疑に入ります。

○飯田敏勝委員 詳細は経済建設委員会で話されると思いますが、農業被害、その他かなりあって、ビートなども植えかえたとかそういうこともあったと思うのですが、それは経済建設委員会のときまでには詳しくわかるのですか。

○大島昌之総務課長 経済建設委員会の中でも同様の災害の発生状況について、御説明をさせていただくことになっておりますので、その点も含めて、お答えできるかどうかというのは、現時点では確認はしておりません。

○飯田敏勝委員 ここは所管委員会ではないのですけれども、総合的な被害状況だとか、そういうのはある程度、私は示すべきだと思います。

詳細については、所管委員会で、私たちもそれらを知ることができるのですけれども、被害総額、その他はなかなか出しづらいと思いますが、それらも含めて要望していきたいと思います。

○平賀貴幸委員長 ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、この件についても了承いたします。

○平賀貴幸委員長 次に、行政視察の取りまとめについてであります。

今年度の行政視察の取りまとめ方法につきましては、4月11日開催の当委員会において、各委員がレポート作成をし、それを取りまとめることで決定をいただいたところでありますが、あわせて各委員より、口頭での御報告をいただくということになっておりました。

それで各委員より、順次、報告をしていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○近藤憲治委員 総務文教委員会の行政視察の結果について、レポートも提出させていただいているのですが、3カ所に山形県天童市、宮城県石巻市と岩手県宮古市にお邪魔して参りました。

山形県天童市のリバテラスちえふるというのは、

事業概要等はレポートにつらつらと書いてあるので、読んでいただければと思うのですが、天童駅前の商業ビルの空きスペースを利用して、通学途上の高校生たちに自主学習の場を提供しようと、その場で大学生や教員OBなどが学習相談、勉強のアドバイスにも乗れるという事業でありました。

非常に意欲的な取り組みだという印象を受けたのですが、高校生の導線上に施設を設置しないと、ニーズがあってもなかなか集客を図れないのだと現場を見ながら思いました。

網走で応用する際には、2つの高校の高校生がどのようなルートで通学をして、どこに集まりやすいかというのを見きわめた上で取り組んでみると、うまくいく可能性もあるのかなという印象を受けたところであります。

宮城県石巻市、岩手県宮古市については、東日本大震災、そして津波の、復興のプロセスで今どうなっているのか、そして今後どうなるのかという点を視察させていただきましたが、いずれの地域も、いろいろと悩みを抱えながら、少しずつ前に進んでいくという印象を受けました。

そのときに非常に重要になるのが、復興の地域住民のコンセンサスを築くことなどにしても、やはり常日ごろからのコミュニティのきずなの強さ、結びつきの強さがあれば、何か異常時にも、そこからの復興のプロセスを決める際なども非常にスムーズな意思疎通ができるというのは、両地域のいろいろな話を聞きながら感じたところであります。

また行政機関に関して言えば、想定外、想定以上の災害が発生した場合に、どう対応するのかという想像力が非常に問われていて、異常時にどこまで対応できるのかという部分で、行政機関の力も非常に問われるのかなという印象を受けたところであります。津波が来る可能性が高い、低いかんは問わず、やはり平時からコミュニティのきずなの強さを維持する取り組みでありますとか、想定を超えるような災害が発生した場合に、行政機関はどこまで対応できるのかという想像力を養うような取り組みが必要であろうというふうに感じて、帰ってきた次第であります。

以上です。

○高橋政行委員 私は、天童市のリバテラスちえふるの視察につきましては、今言われたとおりでございますけれども、網走市内の駅ということを考えますと、2カ所ある駅のうち、それをできそうだと

うイメージはないわけですが、空き店舗を利用されたということもありまして、その市内の空き店舗、これは元大きな商業施設がありましたところ、あちらはよく高校生、中学生が集まっていたところだと思っております。また、そういった中で、空き店舗を利活用ができないものかなと、そんなふうに感じたところです。

それと、石巻市につきましても、お話を伺っている中で、胸に詰まるものがありまして、聞きたいことが、なかなか聞くこともできないという、そんな雰囲気も感じました。

私も以前、新潟に行ったときのことを、一般質問の中でさせていただいたことがありますけれども、あのときと同じような状況だったのだなということを変更して知ることができました。

そして、宮古市につきましては、特に感じたのは高台に移転しなければならないという、そういう問題がありました。なかなか土地の確保ですとか、そういったものが進んでいかないということを知って、これから大変だということを感じましたし、それからもう少し、国が何とか早い復興の手を差し伸べられなかったものかと、そんなことも感じてまいりました。

以上です。

○飯田敏勝委員 今回は3市4カ所の視察になりました。

天童市については、リバテラスちえふるは、天童市で山形国体があったときのメイン会場になった場所ですね、開、閉会式と陸上競技場を持っているということで、集客を当て込んだ施設が市民プラザだったと。

なかなか通常施設として活用されていないということで、現状打開の一環として、施設をつくったという背景があります。

実際、高校生が9割方利用しているのですが、実際に拝見すると物音一つにも気を使うような雰囲気の中で勉強していました。

このような施設を網走に当てはめるということは、学校の地理的状況、通学状況等を考えると、なかなか、どのようにできるかわからないのですけれども、天童市としては、学校教育から離れて社会教育的居場所という形で提供しているということから考えると、今後、どのようなことで網走市に参考事例としてできるか、調査研究していく課題を投げかけた視察だったのではないかと思います。

あとは、石巻市と宮古市なのですからけれども、東日本大震災における、まだ住宅や働く場所の生活再建が進まない、岩手県と宮城県の代表的な地域だと思えます。

特に子どもや若者の流出による地域の存続が危惧されていて、自治体の存続にも危機感を募らせる事態の中での視察になったかと思えます。

特に、石巻市は宮城県です。全般的に宮城県は、国土交通省が入って宮城県としてやっているのですが、なかなか県として、暮らしですとかそういう拠点では、自力再建に補助はなかなか出にくい状況で、石巻市はやっています。

特に印象にあったのは、コミュニティーの崩壊ということでした。

移動支援R e r a という、特定非営利活動法人を訪問したときには、やはりコミュニティーの崩壊、特に石巻市は、仮設住宅から復興公営住宅というのを建てているのですけれども、市は一生懸命やっていますが、県営はほとんど手がつかないというような状況です。

その中で、抽せんによって仮設から復興公営住宅へ移る時に、コミュニティーがばらばらになっていくというのを、移動支援R e r a のほうでカバーしながら一生懸命活動しているということに、非常に感銘を受けました。

石巻市は行政体としてはそこそこ大きいので、震災前の職員減、それから復興への公務過重、これは大変なものだと思います。

行政体には、体力が残っていないというようなことを私は聞きましたけれども、本当に公務過重、これは宮古市もそうなのですから、要するに、職員を震災で失う、そして、その補充はなかなかできないということと同時に、予算は10倍ぐらい来ているのです。

それが、公務過重ということは、体力的にも精神的にも、担当者等がかなりストレスになっているということで、世の中の関心は、一般的に報道は東京オリンピックにもういつてしまっているのです、東北は忘れられるかもしれないという懸念も、視察の中で垣間見ました。

そういうことからすると、この網走市にどうこれらの視察を当てはめていくか、特に、網走が防災計画づくりを今、担当参事を置いてやっているのですけれども、やはり自主防災組織一つ作るにしても、その辺のコミュニティーの形成等をしっかりと考え

ながら、今後とも議会としてしっかりと関わっていくべきだと思います。

以上です。

○七夕和繁委員 まず、天童市の学習支援室なのですが、自主的な学習を行う施設としては、順調な事業を実施されているのではないかと感じました。

また、近隣の大学との連携で、幅広い指導を生かしているのかなと思ったところでございます。

余談ではありますが、通学時間帯にちょうど移動が重なりまして、その中で学生の学習意欲の高さというのをまじまじと見せつけられ、個々の基本的な学習意欲と、幼少期の指導方針の必要性を、これから感じるころかなというふうに受けとめました。

災害地は、今回2カ所お伺いさせていただいたのですが、1日も早い事業を切に願っているところがあります。

また、聞いた話ですが、防波堤がある故に、安心感を持って逃げ遅れてしまったという話があって、また、別に防波堤がないところでは、避難意識が高いということで、誰一人亡くなることもなく避難できたということもあったようです。

そこを行政としてどういう立場で受けとめて、ソフトとハードの使い分けをしながら進めていくのかということ、実感的に見せていただいたのかなと思っております。

詳しい中身についてはレポートに書いてあります。

以上です。

○井戸達也副委員長 皆さんから、一通りお話が出たのですが、この学習支援室リバテラスちえふるといふ、自主的に勉強行う空間、網走でいえばエコセンターの図書館のような、学校の教室のような作りをしているのですが、自主的に静かな中で集中して勉強ができると、そして、横と壁のつい立てがあり、プライバシーが守られた中で、勉強がゆっくりできるというところに、市民ボランティアと学生の学習支援の指導員、指導という形で、国立山形大学の学生が来て、勉強の仕方などを指導するという連携というものがすばらしいなということ、意外と利用されているということは、子どもたちが自主的にそこへ行ってゆっくり勉強したいという意欲の高さ、先ほど七夕委員からもありましたけれども、電車の中で一生懸命勉強をしている姿、これは電車の中でいろいろトラブルがありまして、かなり長い時間を過ごす時間がありまして、いろい

ろと見ていると、寝ている子どもたちもおりましたが、試験などがあったのかわかりませんが、一生懸命勉強をしている姿が見られて、なかなかこういうのは当市ではない光景だというふうに思いました。

先ほど飯田委員からもお話がありましたけれども、施設についてはそういった形で、商業施設としてあったものが何かいい方法はないかということで、この学習支援室を作ったということでもありますけれども、効果が出ているのかなということは感じました。

被災地についてですけれども、皆さんも御承知のとおり石巻市は、非常に大きな被害を受けたところで、市内の13.2%が浸水するという大きな津波の影響を受けたところでもありますけれども、消防団の方も多く亡くなられて、非常に残念なことです。27名の方が亡くなられたと。

一番の課題としては、地域のコミュニティーの復活というところが非常に印象強く残っております。

その石巻市で、その行政の取り組みでは、手の届かない活動をされているというNPO法人の移動支援Reraというところも見せていただきましたけれども、この移動支援を進める中で、この地においての必要性を強く感じたということで、新たな移動支援として、ボランティアとして活動していると、行政では届かない民間での視点と、そういったさまざまな立場で協力し合った中で、一つの形ができるのかなというところで非常に感動して、話を聞かせていただきました。

宮古市は、当市もボランティアに入っているということもありまして、その後の経過というものも含めて見せていただきましたけれども、ここでも多くの方が亡くなられた中で、消防団も16人亡くなられているという非常に残念なところがありました。

七夕委員からもお話がありましたけれども、防潮堤がない鵜ヶ崎地区というところでは、地域の防災力は十分であったという部分もありまして、被害は多かったのですが、犠牲者は極めて少なかったというところから考えると、日ごろの住民の意識という部分が非常に大事なかなというふうな感想を持ちました。

こういった中で、非常に課題はたくさんあるのですが、計画を綿密に立てながら進めているというところを見せていただいた中で、少しでも市民、住民の方々が安心して暮らせる日が早くやって

いくことを願っているところであります。

以上です。

○平賀貴幸委員長 最後に私からであります。児童市においては学習支援室ちえふるを見せていただきました。

他の委員からもありましたように、例えば網走でやるとすればまちプラを活用する、あるいはエコーセンターの空室があればそこを活用する等も考えられるのですが、基本的に網走の学生は図書館で勉強をされているので、そこが手狭でほかに場所が必要だということになったときに、こういう事例も一つ考えられるのかというふうに捉えたところであります。

震災関係は宮古市並びに石巻市に伺ったわけですが、私が最も印象に残ったのは、東日本大震災は今も発生中であるというふうにおっしゃっていたことでありまして、決して震災が終わったわけではなくて、今も真ただ中にいるところを、やはり我々はもう一度認識しなければならないと改めて思ったところです。

また、平時において想定しておくことの大切さというの、いろいろお話をされておりまして、避難先までは当市でももちろん検討しているのですが、その後まで検討しなければならぬというのは改めて思いました。

というのは、仮設住宅の設置の場所についても、被害の地域が少なかった岩手県宮古市等は、ある程度コミュニティーがまとまった形でできているのですけれども、石巻市は被災の範囲が広がったこともあって、コミュニティーがばらばらで仮設住宅に入らざるを得ない地域が多数あることから、コミュニティーが既に崩壊をしていて、さらに、新たな復興住宅に行くときに抽せんなので、またさらにコミュニティーが壊れるということで、どのコミュニティーもぐちゃぐちゃになってしまうというような状況が発生している。

これは平時から想定しておかないと、なかなか対応できない課題なのだと、改めてまざまざと見せつけられた思いがいたします。

また、行政組織も、想定をしておかないと結局自分たちの分掌の中で、それぞれの動きをしていき、統一感を持って動き出すためには、かなり時間がかかるということで、事前にどういう動きをするかということを想定をして、職員の分掌にとらわれず動くにはどうすればいいかということ、やはり組織

としては考えておかなければならないというのが、行政という組織なのだと改めて認識させられたところであります。

私からは以上です。

それでは行政視察の報告については、以上で取りまとめとさせていただきますと思います。

○平賀貴幸委員長 それではその他であります。委員の皆さんから何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

理事者の方からは。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

それでは総務文教委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午前10時32分閉会
